

# 母乳育児奮闘記

さかいたけお赤ちゃんこどもクリニック 塚 武男

## 第4回 過飲症候群 (Overfeeding syndrome) ?

過飲症候群とは「飲ませすぎのために健康破壊につながる」病態である。先日ある産科の先生から「しょっちゅう吐いている子がいるので診てくれないか」という電話がきた。「何ヶ月のお子さんですか?」と聞くと2ヶ月だという。それでは幽門狭窄症ではないだろうと思いながらどうぞお出で下さいという鳴子の人だという。結局その日の夕方に来院された。

来院してみると、丸々どころかかなり肥っている。鼻水もダラダラ出ている。出生体重は2802gで、埼玉県での出産。最初は混合であったが最初から人工乳を足されており、やはりその内母乳はなくなってしまい、完全人工乳になった。1か月健診での体重は4465gで1663g増えていたが、その時点で人工乳140cc×8回=1120cc=251cc/kgを健診で勧められている。それを勧めた小児科医は、母子手帳の名前を見ると実は僕もよく知っている方で、ちょっとびっくりしてしまった。

来院時の体重は6275gでこの1か月で1810gの増加。思わず「うーん」であった。聞くと赤ちゃんが少し残しても「あと30cc、頑張ろうね」で完飲（そんな言葉あったかな）させているという。お母さんにちょっとミルクの量が多すぎて体重も増えすぎだね。それで吐いているね。と言うとお母さんはびっくり。それもその筈、お医者さんのお勧めに従っただけだから。

これは典型的な過飲症候群ということで、まずミルクの量を減らし、もう沢山というときはそこで終わりにすることなどを伝えた。もともと過飲症候群は橋本武夫先生が提唱した概念で、

- ①人工乳の子に多く
- ②よく飲み、体重もかなり増えている
- ③鼻水、喘鳴が多く、吐乳も多い。腹満もある。
- ④小児科に行くと風邪薬を出されている。

根本にある問題点を見ずに鼻水や喘鳴にやたら薬のみで対応する小児科医に対する批判が込められている。同時に、体重は増えていればその内容はどうでも、それでいいという認識にも批判が込められている。

さて、では母乳のみの場合で体重が急激に増えている場合はどうだろうか。私は母乳のみの場合はあまり気にしないことにしている。3ヶ月くらいまで一日60gの体重増加があり、体重曲線を飛び越えてしまっても、ほとんどの場合は5-6ヶ月で体重曲線内に戻ってきて、1歳では9-10kgに落ち着いてくれる。

もう一つ、体重のみを見て増加を判断せず身長とのバランスも重要である。また、完全母乳では将来の肥満が少ないことも説明している。ただ、ときにBeckwith-Wiedemann 症候群が隠れていることもあり、出生時の低血糖、臍ヘルニア、巨舌などには注意が必要である。